寢

給へり、寢殿のしつらひ、或は南。枕。常の事也、白河院は北首に御寢なりけり、北はいむ事也、又伊勢は南なり、大神宮の御方を御跡にせさせ給ふ事、いかゞと人申けり、但大神宮の遙拜はたつみに向はせ給ふ、南にはあらず、

〔太平記二十六〕楠正行最期事

楠兄弟差違へ、北。枕。ニ臥ケレバ、〇下略

〔文德實錄四〕仁壽二年二月丙辰、散位從四位上和氣朝臣仲世卒、仲世〇中略天性至孝、年十九爲文章生、大同元年、爲大學大允、奉公忠謹、每至寢臥、首向宮闕、

〔先哲叢談後編三〕越雲夢

雲夢雖有事故、未嘗東首而就寢、蓋不欲趾城方也、其家適有修造之事、雖不欲趾城方、依正室便房板障裱隔等不全具備、不得不爲東首、家婢置床東首曰、今夜依修造、常寢不便、僅一宵耳、爲如此、雲夢曰、三十年不欲東首就寢、爲吾不忘君恩之大也、遂不聽、

〔拾芥抄下本諸教誡〕源信僧都四十一箇起請

應重禁制條々〇中略

一亥子寅此三時可寢、自餘不可眠、〇中略

已上四十一箇條、可如眼精矣、

〔新撰字鏡目〕眲莫卑反、眠也、目合也、禰夫留、又伊奴、

〔類聚名義抄七宀〕寐寐俗通 彌臂反 イヌ 和ミ フス 寐正俗寐

〔同七穴〕寢人委反 又音淤 イヌ オホトノコモル 寢正

寢寞俗 寐イヌ フス 子タリ 寐俗寐字

〔運步色葉集奴〕寢ヌル 寐ヌル

〔書言字考節用集八言辭〕寢イヌル 寐同 寐ヌル 寢同 寐テル 寢同